

氏名： 藤崎 宏子 (FUJISAKI Hiroko)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
学位： 博士 (社会学) / Ph.D.in Sociology  
職名： 教授  
専門分野： 生活福祉論・家族社会学  
URL： <http://www.soc.ocha.ac.jp/fujisaki/>  
E-mail： [fujisaki.hiroko@ocha.ac.jp](mailto:fujisaki.hiroko@ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

高齢者／家族／福祉政策／社会的ネットワーク／ライフコース  
Eldery / Family / Welfare policy / Social network / Life Course

#### ◆主要業績

総数 ( 2 ) 件

- ・お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科藤崎宏子研究室 『ミドル期女性が歩むライフコース－ 3年後の追跡調査－』 2007年7月
- ・藤崎宏子・久保桂子 「ワーク・ライフ・バランスの変容」 『家族関係学』 No.26 2007年10月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- ① 高齢者介護における公私の機能分有。とくに、介護保険制度の導入が、高齢者の家族関係や高齢者介護をめぐる家族的責任に及ぼした影響に関する研究
  - ② 高齢期の家族関係、友人関係、地域社会との関わりや社会活動のあり方に注目した高齢期のライフスタイルに関する研究。
  - ③ 中高年期の転機と危機的移行、世代間関係に関する研究。
- ① The functional sharing of elderly care between formal and informal sectors, focusing on the family's care provider role. The impact of enactment of the Long-term Care Insurance(Kaigo Hoken) on family relations and family responsibility.
  - ② The lifestyle of the elderly, including their family relations, friendship, social activities, and consciousness of autonomy, based on the theory of social network and life course.
  - ③ Critical transitions and turning points in midlife. Generational Relationship of midlife.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

### 〈学部教育〉

- 家族関係論：  
歴史変動と文化比較を軸とする日本の家族の現状に関する講義
- 社会福祉学：  
社会福祉の法制度の概要とサービス利用の諸問題に関する講義
- 老人福祉論：  
高齢者の生活実態と高齢者福祉の現状と課題に関する講義
- 生活福祉学演習：  
社会学の基礎的文献の講読・論文指導

### 〈Undergraduate courses〉：

Sociology of Family  
Sociology of Social Welfare  
Social Welfare for the Elderly

### 〈Graduate seminars〉：

Aged Society Seminar  
Family Transition Seminar

### 〈大学院教育〉

- 長寿社会論：  
社会的ネットワーク論に関する文献講読
- 長寿社会論演習：  
家族と福祉政策に関する文献講読
- 家族変容論：  
家族研究の理論的基礎の強化と論文指導

## ◆研究計画

- ① COE で着手した中高年者の危機的移行と世代間関係に関する研究を、科学研究費補助金（基盤研究 B）によるプロジェクト研究に発展的に引き継いでおり、2007 年度に実施したインタビュー調査データの分析をおこない、研究成果をとりまとめる。
- ② 高齢者介護政策の動向と家族介護の実態との間に生じている諸問題に関するこれまでの研究を整理し、できれば単行本にまとめたいと考えている。

## ◆メッセージ

「あたりまえ」の世界に安住しないで「なぜ？」という問いを発してみることに。慣れ親しんだものの見方をいっとき封印し、異なる視点からものごとをみようとすること。そんなちょっとした冒険が、あなたの世界を広げ、より豊かなものにしてくれることでしょうか。研究することと、自分の生活をつくっていくこと、そして生きることそのものが、相互に密接にかかわりあっていると気づいたとき、社会学という学問の深い魅力にとりつかれるとともに、自分自身の生き様が問われるようなしんどさも感じます。でも、閉塞感の強い現代だからこそ、自分自身について、周囲の人間関係について、そして社会のしくみについて、社会学的思考法の武器をもって、深く掘り下げて探求していきたいものです。

学部教育では、私が専門とする高齢者問題、社会福祉、家族関係などの身近な話題を切り口とした講義や演習を通して、社会学的思考法の基礎を修得することを目標にします。要するに、足腰を強くするステージだと考えてください。大学院教育では、学部教育で培われた強靱な足腰にくわえ、社会学的想像力・創造力にいつもの磨きをかけ、学術的に価値ある研究論文の完成を目標に指導していきます。